

【緑地の樹】

ムベ(郁子)

ムベは花広場の東側のコンクリート壁に沿って植わっている。もとは10年前、緑地メンバーのTさんの庭に鳥が運んだ種が実を結んだ。

そこでできた種を今度は緑地に蒔いたそうだ。そして今や、幅30m、高さ3mの竹垣に絡まって繁っている。トキワアケビとも云われアケビと似ているが違いは、アケビは落葉、実は熟すと割れるが、ムベは常緑で、実は熟しても割れない。

ところでムベって変わった名前だ。思いつくのは、「むべなるかな」という言葉。「もつともだ」とか「いかにもその通り」という意味。昔、天智天皇が滋賀県近江へ行った時、元気な老夫婦に会い、長寿の秘訣を尋ねると、「秋に採れる珍しい果実を食するから」と答えた。賞味した天皇は「むべなるかな～」と言われたので、ムベになったと云う。



プロフィール：アケビ科 ムベ属

花広場の、平和台住宅側フェンスに巻きついています。

3~7枚の葉はツヤツヤし、5月頃、百合を小さくしたような白い花が房になって咲く。虫達も蜜を吸いに集まってくる。秋には紫色の俵型の実をつける。その果実は半透明のゼリー状で黒い種が多い。半分に切ってスプーンですくって食べられ、ほんのり甘い。種をだすのは、ゼリー状に絡まって少しやっかいた。スイカのようにはいかない。

しかし、ムベは店では見かけないし、こんな身近に採れるとは貴重でありがたいことだ。古代では、さぞかしおいしい天然のスイーツだったろう。近江では、ずっと天皇家にムベを献上していたというし、最近では町おこしにムベの栽培も行っているという。

上品な甘さのムベ、実の色は紫といっても、淡い紫、濃い紫、赤みをおびたり、デリケートな色あいがとても美しく、たっぷりと実ったものはなまめかしくもある。緑地で初めて知ったムベさん、見直しました！！

(宮崎)